

千葉市感染症発生動向調査情報

2017年 第44週 (10/30-11/5) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		44週	43週	42週	41週
小児科		18	18	18	18
眼科		5	5	5	5
インフルエンザ*		28	28	28	28
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	10/30-11/5	10/23-10/29	10/16-10/22	10/9-10/15	10/23-10/29
			44週	43週	42週	41週	43週
小児科	RSウイルス感染症		1	5	3	12	101
	咽頭結膜熱		3	7	2	3	58
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	29	25	21	29	299
	感染性胃腸炎	○	70	68	62	54	400
	水痘		4	3	4	6	31
	手足口病	↓★	41	55	38	39	355
	伝染性紅斑		2	1	0	0	8
	突発性発しん		8	11	9	9	61
	百日咳		0	1	0	0	1
	ヘルパンギーナ		4	7	5	3	72
	流行性耳下腺炎		5	7	0	5	26
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		9	7	5	1	142
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	1
	流行性角結膜炎		4	5	5	3	25
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	1
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	1
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	2
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ○:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(3件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	50歳代	病原体等の検出	結核	女性	20歳代	IGRA検査等
結核	男性	60歳代	画像診断	-	-	-	-

・第44週は、結核3件(181)の報告があった。

※ ()内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第44週のコメント

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し1.61となった。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベル。

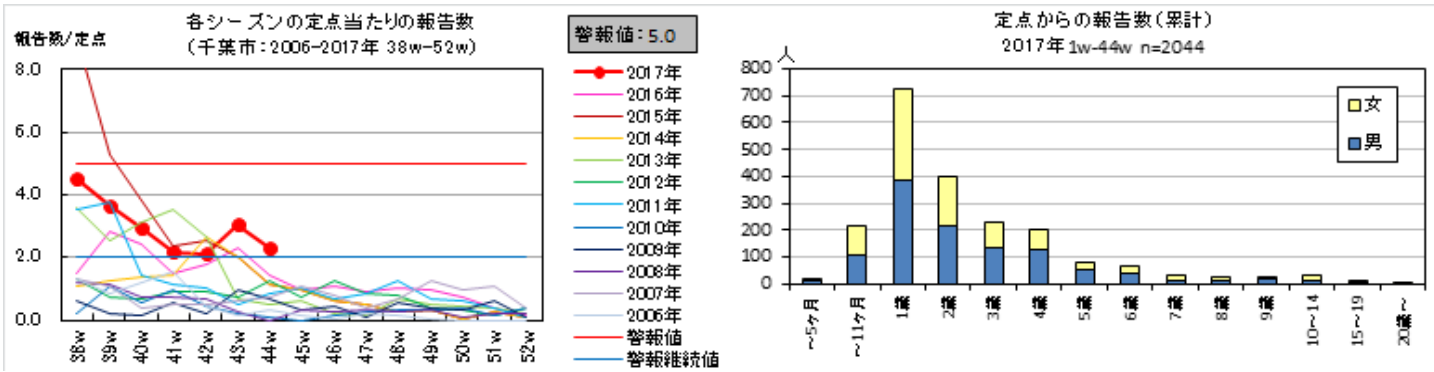
<感染性胃腸炎> 前週より増加し3.89となった。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベル。

<手足口病> 前週より減少し2.28となったが、流行発生警報終息基準値は上回ったままで、過去10年の同時期と比べると最多。

■ トピック ■

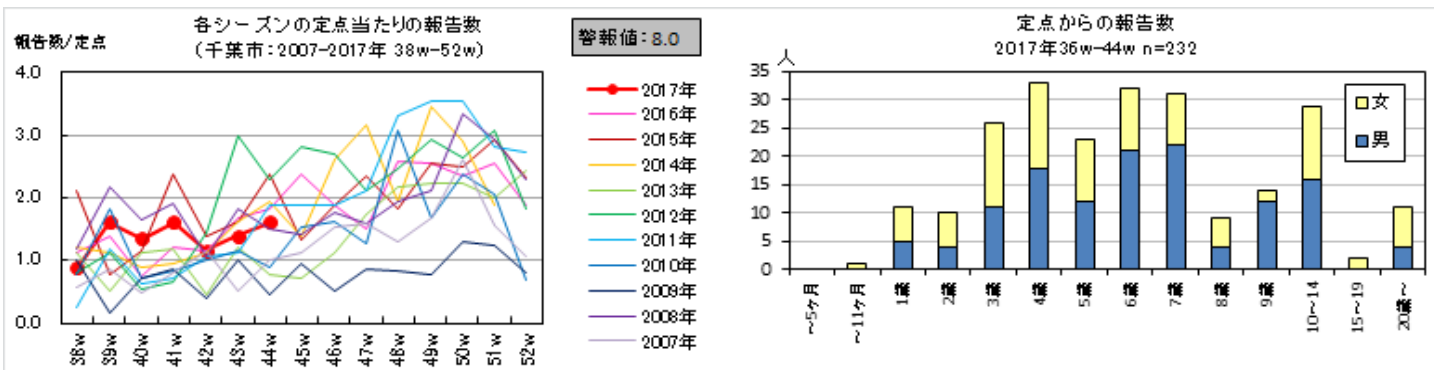
<手足口病>

全国レベルの第43週は、過去10年の同時期と比べると2週連続で最多となっています。都道府県別では佐賀県、愛媛県、茨城県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多くなっています。千葉市の2017年第44週は前週より減少し2.28となりましたが、流行発生警報終息基準値(2.0/定点)は上回ったままで過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、中央区(3.67/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。その他、若葉区(3.5/定点)及び稲毛区(2.67/定点)で流行発生警報終了基準値(2.0/定点)を上回っています。2017年第1週から第44週までの累積報告数(n=2044)によると、性別では男性が54.6%(1116名)、女性が45.4%(928名)で、年齢階級別では1歳(35.5%:726名)、2歳(19.6%:401名)、3歳(11.1%:226名)の順に多くなっています。



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第43週は過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では鳥取県、山形県、北海道の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の2017年第44週は前週より更に増加し1.61となりました。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。例年の発生動向によると、今後増加する傾向にあります。区別の発生状況は、緑区(4.0/定点)で最多で、同区の4歳で多く発生報告がありました。今シーズンである2017年第36週から第44週までの累積報告数(n=232)によると、性別では男性が55.6%(129名)、女性が44.4%(103名)で、年齢階級別では4歳(14.2%:33名)、6歳(13.8%:32名)、7歳(13.4%:31名)の順に多くなっています。



<感染性胃腸炎>

全国レベルの第43週は過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。都道府県別では宮崎県、愛媛県、大分県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の2017年第44週は前週より増加し3.89となり、過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。例年の発生動向によると、今後増加する傾向にあります。区別の発生状況は、若葉区(11.0/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。直近の4週間の推移を見ると、若葉区と稲毛区で増加しています。今シーズンである2017年第36週から第44週までの累積報告数(n=508)によると、性別では男性が54.5%(277名)、女性が45.5%(231名)で、年齢階級別では1歳(21.3%:108名)、2歳(13.6%:69名)、4歳(11.2%:57名)の順に多くなっています。

